

吉野川を釣る！



(吉野川下流域の春の風景)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに270種ほどの魚(淡水・海水・軟体動物含む)を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。

現在8種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

今年の春の釣果をご紹介します。



みなさんは、サツキマス(五月鱒)という魚をご存じでしょうか？

アマゴの降海型で、普通アマゴは25cmくらいにしか成長しないところ、海に降りることで大きく成長し、40cmほどにもなる鮭みたいな魚です。サツキの花が咲く頃、河を遡上するため、その名がついたと言われております。同じくヤマメの降海型をサクラマスといい。こちらは60cmほどにもなります。

じつは、アマゴが生息する川で、年中流れが途切れない大きな川には生息していて、吉野川にもいるようですが、近年は数が少なくなっているようです。

そこで、今回の目標はサツキマスです。

まずは、情報集めから始めました。書籍、Web、新聞、釣り情報等によると、3月から6月くらいのアユの遡上に合わせ遡上するようで、今年は3/20に旧吉の河口堰で稚鮎の遡上が確認されましたので、作戦開始です。

吉野川で、アマゴを釣るためには、鑑札が必要なので釣具屋さんで購入します。

旧吉野川に出撃してみるとシラサギもよく知っていて臨戦態勢でアユの遡上を待っています。

漁協のおじさんが花火で、シラサギ等を追い散らしていますが、暫くするとまた戻ってきます。

今回は、竿・リールはメバル用を流用です。メインライン・リーダーのみ、PE0.6号・フロロカーボン2号に変更です。



40cmほどのサツキマスを狙うには太いと思われると思いますが、これが外道(本命以外の魚)がすごいんです。

左の写真は、下流域(岩津から河口)の堰付近で釣れた61cmのマゴイですが、10gスプーンをひったくっていき、その後、全然弱ることもなく20分くらいやりとりに掛かりました。

基本的にマゴイはルアーで釣れることは珍しいのですが、稚鮎の遡上とか、他の稚魚の接岸とかのタイミングでは、ルアーで釣れることもあります。

お次は、どこでも釣れるニゴイ君です。

右の写真は、中流域(池田ダムから岩津)で釣れた67cmですが、こんなのが釣れるのでラインを細くすることが出来ません。

サツキマスは、本当に釣れないので、ニゴイでも釣れると少しモチベーションが保てるので、個人的にはきらいではなく、好きかも!!

しかも、ニゴイは狙って釣れます!!

数ヶ月サツキ狙いで吉野川を上ったり下ったりしてましたので、だいたい狙い方は分かってきて最近ではほぼ釣ろうと思えば何匹でも釣ることが出来るようになりました。



それでは、ニゴイの狙い方をご紹介します。(笑) 知りたい人はかなりのマニアだと思えますが………

まずは、狙う場所ですが、とにかく流れの速いところに隣接する流れの緩いところです。詳しくは、流れの速い瀬が終わり次の瀬になる俗に言う瀬尻と呼ばれるところに沢山います。それを偏向グラス(ユニクロで安く売ってるやつで十分です。)を掛けて探します。姿を見つければもう釣れたも同然です。後は、驚かさないう上流からルアー(ミノール・スプーン)を目の前に通すとバクバク食いつきます。欲を言えば目の前で止めてちょんちょんと竿でミノールをピクピクさせれば完璧です。

そうすると下の写真のように50~70cmの良いサイズがばんばん釣れます。

私は、個人的に日本に棲む魚の中でブラックバスに次いでルアーが好きな魚と思ってます。

ただ残念なことに、ヒットした瞬間はがんがん引くのですが、すぐに（5分程）であらうことあきらめてしまい、後は重いだけとなってしまいます。

また、食べても美味しくないようで、Webでもいい話を見たことがありません。私もまだ食べたことはないので、どなたかニゴイの美味しい食べ方をご存じの方は事務局までご一報を……………（笑）

注）文中は、ニゴイとしていますが正式にはコウライニゴイです。



旧吉野川で釣った52cm



吉野川下流域の堰下流で釣った62cm

お次は、こちらも本命が釣れないときの遊び相手のウグイ君です。

右の写真は、旧吉野川で釣れた40cmのウグイで5gのスプーンにがっつき食いついてきました。

マゴイとニゴイは、色が茶色で引きも本命とは全然違うため、ヒットしてすぐに本命ではないとわかるのですが、こいつは色も似ていて手元に来るまで本命と区別が付きにくいので、手元にきてウグイとわかると落胆が大きいです。



この日も、雨の中、日暮れ前の薄暗い刻にガツンと来て、今度こそは本命と思い。ドキドキしながら、普段は出すことのないランディングネットをばたばたしながら出し、さあ、掬いましょう。としたところで口の小さいことに気がつき、がっくりしたものでした。

このウグイ君は、いつも釣れるわけではないのですが、稚鮎が遡上する時とかには釣れることがあります。後は、他の釣りものが少なくなる冬から春にかけて小さめのスピナー、スプーンに反応します。

ウグイには、純淡水に棲むもの、下流域に棲むもの、海に棲むものがあり、上流のイワナ・アマゴが釣れるような渓流で釣れたり、海の漁港でアカカマスを狙っていて釣れたりして驚かされることがあります。ちなみに関東以北では70cmを超えるようなサイズも確認されています。

また、近縁の種類にはマルタウグイ、エソウグイ、ウケグチウグイがあり、遠征してねらってみたことがありますが、未だ漁獲出来ていません。



と、ながながと外道のはなしを書いてきましたが、おわかりのとおり本当に釣れないのです。

サツキマスは、川に遡上してからは殆ど餌を取らないといわれており、河川が増水したときに、その濁りで誤魔化して釣ることがキモなのですが、今年は濁水で右の写真のとおり水がないのです。

旧吉野川から岩津までいろいろなところでルアーを投げて見ますが、当りはおろか追いすらも確認出来ません。

天気の良い日は、吉野川の雄大な景色をみているだけで日頃のストレスが溶けていく。

なあってことは、全然無く。やはり釣り師としては、景色よりも獲物である。

ルアーをとっかえひっかえしながら、いろいろなポイントにルアーを打ち込んで行く。

しかし、本命は釣れない！



そこで、一旦、下流域に見切りを付け、ゴールデンウィーク初日は、岩津より上流の中流域の支川の合流点を攻めてみました。

まずは、支川を攻めて、ニゴイを数匹釣ったところで、本川が合流するポイントに転戦します。

ここは、二つの流れが複雑に絡み合っていて、いかにも釣れそうなポイントです。

しかし、やはり釣れない。





稚鮎カラーの 5.5cmのミノーに変えて流れのよれに打ち込みます。

ググッ ン アレ なんか来た。

いつものニゴイ、ウグイと違うような……

グリングリンとローリングしています。

んん～ **本命**だ～！



頭に電撃が走り、頭が真っ白になり、いつものやりとりが出来ません。

獲物は大きくジャンプし、本流の強い流れに向かって逃げて行きます。

でも、今回の道具は、強い外道用の70cmオーバーのニゴイでも獲れるタックルです。

タックルを信じて、強い流れから引き戻し、2・3回ネットインに失敗しながらもゲットすることが出来ました。31cmと小ぶりながらも取りあえず本命です。

あ～良かった～。



<タックルデータ>

ロッド：メバルロッド 8.6f (2.5m)

リール：ダイワ 2500 番

ライン：PE0.6号

リーダー：フロロカーボン2号

ルアー：フローティングミノー5.5cm

今回、4魚種ゲット。通算12魚種となりました。さて次は何を狙おうかな？



釣り人Nのお魚紹介コーナー



今回釣った
お魚うんちく

<マゴイうんちく>

コイ目 コイ科 コイ属 コイ

棲んでいるところ: 淡水魚、日本全国の河川の中・下流域、湖沼、ダム湖

最近の研究では、普通に見られる鯉は大陸からの外来種とされている。

大きさ: 通常**50cm**ほどだが**最大は1m**に達するものもいる。

名前の由来: 黒っぽい体色から、濃いの意味等、さまざまな由来がある。

食べているもの: 雑食性で、ミミスやタニシ、シジミ、植物の藻や水性植物などを食べる。

釣りでは、練り餌やサナギ、芋など様々なものを使う。

ルアーでは稀。私も10匹も釣ってない。

食べ方: 汁(鯉こく、あら汁)、煮付け、甘露煮、刺身(洗い)、焼く(酒塩焼き)、揚げてあんかけ、

昔は重要種であったが最近は限定的 **旬は冬**

<コウライニゴイうんちく>

コイ目 コイ科 カマツカ亜科 ニゴイ属 コウライニゴイ

棲んでいるところ: 淡水魚、本州、四国、九州北西部の河川の中・下流部 淀川水系産で稚鮎放流により全国に広まったと言われている。

大きさ: **60cm**ほどになる。吉野川では**70cm**クラスもいる。

食べているもの: 水草や藻類、水生昆虫などを食べる雑食性だが、大きくなると魚も食べる。

食べ方: 刺身(洗い)、塩焼き、煮付け、昔は、ヒラメの代用品だったとの話もあるが、現在では食用としているところは少ない。 **旬は冬から春**

<ウグイうんちく>

コイ目 コイ科 ウグイ属 ウグイ

棲んでいるところ: 基本的に淡水魚。湖沼、河川の上流域から感潮域。海で釣れることもあり。日本全国

大きさ: 通常**30cm**程度であるが、感潮域では**50cm**クラスも。関東以北では**70cm**も!

食べているもの: 雑食、水生昆虫、ミミス、甲殻類、小魚、残飯など何でも食べる

食べ方: 焼く(塩焼き、干物)、生食(背ごし)、揚げる(南蛮漬け、唐揚げ)、煮る(煮浸し、甘露煮)

素焼きにして甘露煮とかにする。 **旬は冬から初夏**

・関西では、冬場にハエ釣りといいい人気がある。

<サツキマスうんちく>

サケ目 サケ科 サケ属 サツキマス(アマゴと同種の降海型)

棲んでいるところ: 淡水・海水(沿岸域)静岡県以南の本州の太平洋側、四国、九州

大きさ: 通常 **40cm** 程度であるが、最大 **50cm** になる。

食べているもの: 川に居る間は、アマゴと一緒に水生昆虫等を食べる。海では、イワシ、イカナゴ等の小魚

食べ方: 煮る(煮付け)、ソテー(ムニエル)、焼く(塩焼き)、刺身(ルイベ)、汁(味噌汁)、揚げる(唐揚げ)

淡水魚には、寄生虫が居ることがあるので、生食は、自己責任で! 一旦冷凍し、ルイベにするのが一般的。 **旬は春から初夏** といつかその時期にしか釣れない!